

NPO 法人

# 芦安ファンクラブ通信

第37号 春

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉1589-8 大滝要造

電話 055-288-2531 fax 055-288-2533

URL=<http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

E-mail=rantan@blue.ocn.ne.jp



## 多くの方々とふれあつて

昨年に引き続き本年も阪急交通社が企画した大柳川渓谷ハイキングツアーのガイド事業が実施されました。

前半は三月三十日から四月八日までの間の七日間でバス十二台、概ね三百名の方々の参加があり、当クラブの会員の多くの皆様にガイドを務めていた

だきました。

本年は寒暖の差が激しい年であり前半は春まだ浅いと言う感じの大柳川渓谷であり、渓谷添いにはダンコウバイ、キブシ、ヤナギ、ミツマタや足元にはタチツボスミレ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウなどの可憐な花々を見ながら散策を楽しみました。

また、何といってもツアーの中に「大法師公園の二千本桜」の花見が含まれており、まさにこの期間は桜の花が見頃であり、満足のいくツアーになった事と思います。しかし、日によっては天候に恵まれない日もあり大変ご苦労された事もあったそうです。

後半は五月の大型連休中の五月二日から五月一六日と約半月に亘り実施されバス一二台、概ね四四〇名の方々の参加がありました。

前半は「大法師公園の桜」がセットされていましたが、後半は「第三回富士芝桜まつり」がセットされました。しかし五月上旬は異常気象により寒い日が続き芝桜は三分咲きと言った感じだったそうですが、中旬には七～八分咲きとなり、主催した阪急交通社の方々も胸を撫で下ろしていました。

大柳川渓谷も前半と違い新緑もすっかり濃くなり初夏を思わせる風景に変わっていました。

コース沿いにはアヤメ、フジ、キリといつ

なお、本年は当初予定していたコースの一部が崩落してたり、つり橋の踏み板の取替え工事などがありコースの変更を余儀なくされました。参加した皆様は素適なガイドの説明で春の渓谷やふれあいを楽しんでいただけたと思します。



今回の大柳川渓谷ガイド事業には七百名以上のツアー参加者が有り、多くの方々より高評価を頂だと併に、より多くの方々と触合えた事が大きな成果であったとおもいます。また、ケガや病人が無かつたことも本当に良かったと思っています。

今後もこのような類似事業の需要が増していくのではないかと思われますので会員の一層の研鑽が求められるのではないかでしょうか。

記・画 穂坂 二郎

## 「世界遺産フォーラム・イン

### 飯田」を聞いて

まる「世界遺産フォーラム」と塩沢館長の学術報告が大盛況になるのでは、と予感を覚えたものでした。

さてフォーラムは飯田文化会館で定刻（午後一時）に開始となり、先ずは「世界遺産検証！今後のあり方を考える」ユ

先般（三月二十七日）、桜が一分咲きの信州飯田で七年に一度の「お練り祭」が

盛り上がりつゝいるさなか開催された「世界遺産フォーラムin飯田」に芦安FCの仲間と出かけ、祭り観光とフォーラム講演を聴いてきましたのでお話をいたします。

我等、芦安FCメンバー一行十名は中央

道八ヶ岳PAに集合し、マイカー二台に分乗して信州飯田の「お練り祭」会場に午前十時前に到着、市内中心街の全域で開催されていた大がかりで伝統ある勇壮な祭りを見学しました。なんてつたつて昼食をしながら祭りを眼下に眺め、獅子頭の前で可憐に舞う初化粧した稚児の情緒深さに見入つてしまい、これから午後の始

氏曰く「世界遺産には文化、産業、景観、に歴史的な物証経緯も重要であり、それにもまた国民的気運の高まりと普遍的な保護管理が大切な条件である。」と説きました。

その後は、パネリスト・岩槻邦男氏（東京大学名誉教授）、中村俊郎氏（石見銀山資料館理事）、戸田光彦氏（自然環境研究センター主席研究員）から「世界遺産登録に向けて求められるもの」と題して講義を聴き、とりわけ中村氏の石見銀山登録の弁には感銘致しました。故郷で継承されてきた歴史的文化価値を地道に保全し取り組んできた、経験に基づく話しひには説得力あり聞き入つてしまつた。

途中休憩を挟んだ後は、南アルプス報告会として、我等芦安FCの塩沢館長を「取り」とする四名の報告がありました。

途中休憩を挟んだ後は、南アルプス報告会として、我等芦安FCの塩沢館長を「取り」とする四名の報告がありました。



記 渡辺 典美  
画 宮下 重晴

て、その場の空気に触れて、食べて、肌で感じ、未来の希望や夢の光をいざなうこと」だそうですから、このフォーラムこそが我等芦安FCの観光であった。と私は勝手に納得している一人であります。

が我等芦安FCの観光でした。と私は勝

途に納得している一人であります。

塩沢館長の「二十分間の南アルプス稜線の旅」では、クッキリとやまに映し出された雪形の農鳥、農牛が有史以来農耕の暦であったこと。奈良平安の時代から和歌に詠まれている「甲斐ガ峯」と言う物証のある文学や農耕文化が南アルプスに存在している、との報告でしたので、我々こそがこの気運を高め、普遍的な保護管理に取り組まなければならぬと強く思つたものでした。

終わりに、多くの方の講演や学術報告を聴き、結局は我々のようなクラブや地域団体から気運を盛り上げ、歴史と伝統ある「お練り祭」のさなかのフォーラムに参加して、観光とは「本物をこの目で観

## 「晴れ」の登山教室には、

なれなかつたよ

五月二十二日・二十三日と、「春」の登山教室（第二十三回）が行われた。

一日目は午後から山岳館のいろいろの間での研修となつた。



講師宮崎吉宏さんの「甲斐駒開山」は、あたかも古文書を一文字ずつ解読するかの様な、じっくりとした話につい引き込まれ、太古の山を開いた行者の不思議な世界に思いを馳せた。小説や映画の「剣岳」との連想もあり、山野を自由自在に駆け巡る空想をした。

次に、「安全登山十ヶ条」を我がファンクラブ員の井口功さんにお話して頂いた。



さすが山登りイコール人生という達人ならではの、経験豊富な楽しい話や苦労話を聞かせてもらい、少数の参加者と多数のファンクラブメンバーも時間を使わずに聞き入っていた。

講師のお二人に感謝。



二日目は予想した通りの雨降りで止む気配も無く、仕方なく行程を変更しました。

日向山の山頂へ行つても景観は望め

われる「ユキワリソウ」を見る事にしました。林道を歩いて、錦滝と、岩場にひつそりと咲く一群のユキワリソウにお目に掛かることができた。

高い所に咲いている為、間近く見る事はできなかったが、淡いサクラ色に一層の近寄りがたい神祕を感じて、別れを惜しんで引き返した。

その後、甲斐駒神社とサントリー蒸留所を覗いて山岳館に戻った。

日向山は、何時の日いか再度「晴れ」の登山教室のメニューに載ることを期待している。

記 清水  
画 清水  
准 一 毅



### 安全登山の10カ条

- 1 自分の面倒は自分で見ることが鉄則だ。
- 2 危険を避ける努力をする。
- 3 完全な装備、充分な食料を持つ事。
- 4 単独での登山は危険だからやめよう。
- 5 安全登山の体力の目安。
- 6 早立ち、早着き、無理をせずに引き返す。
- 7 気象の変化への正しい判断が必要。
- 8 山の歩き方。(慎重に且つびびらずに)
- 9 山岳保険に加入しよう。
- 10 自然を大切にしよう。

(普通の登山道で1時間に標高差300mを登る)

## ザ、ファーストエイド レクチャーネット

### 芦安山岳館で開催

春山シーズンを前にした、平成二十二年四月十七、十八日の一日間、南アルプス芦安山岳館で山岳エリヤでの怪我人や遭難者を想定した救急法の講習会が山岳遭難防止「大久保基金の会」と芦安山岳館の共催で実施された。

この講習会には、大久保基金の会会員十五名、NPO法人芦安ファンクラブ会員十八名、南アルプス市救助協力隊四名、南アルプス警察署員四名、山小屋関係者四名の総勢四十五名が参加した。

この企画は、昨年の大久保基金の総会時の要望で、「夏山シーズンの前に山小屋関係者を中心とした救急法を是非学びたい」との意見から、今回の実施に至った。近年、高山における事故や遭難は多様化するばかり、限られた不自由な環境でそうした現実と遭遇せざるを得ない当事者達は、適確な判断と適正な処置が要求される。



熱心に胸骨圧迫訓練



志賀尚子先生による講習



AED 操作を学ぶ



恵(いさお)秀彦先生による講習

もう一人の講師は救急指導医、脳外科専門医の志賀尚子先生。志賀先生はこの山岳館での加藤慶喜君追悼企画展準備のために何回か足を運んでくれている。加藤君の遭難したクーラカンリヘ医師として同行していたからだ。展示パネルに表記してある「助けてあげられなくてごめんね」の手記は何度読んでも胸が熱くなる。夜勤明けにも関わらず、午後からの「急性高山病について」の講演に車を走らせて来てくれた。

十時：開始、簡単なセレモニーの後、恵先生から、事故の予防と対策として山岳事故の傾向やトレーニングの必要性が解説され、突然死の種類や救急態勢の不備による防ぎ得る死亡が見落とされている。高校時代から登山を始め、国内の四季の高山はもとより、多くの海外遠征でも活躍中である。クランクインされた人気漫画「岳」の、撮影時の救助や急救技術指導なども手がけていている。

出来るのは現実的な救急法を心得しなければ意味がない。こんな希望を叶えてくれた適任の講師の先生への折衝は、御池小屋管理責任者の高妻氏が丁寧に対応してくれ、事前の準備や当日のスケジュールに至るまですべて整えてくれた。

一般的には早くその場からの搬出や搬送への作業を急ぎ、大事なこともややもすれると見落としがちになる。過去のいくつかの場合も満足なCPRがされていたのだろうか、しばし反省が残る。

十五時：「急性高山病」の講習に移る。志賀先生の海外高山遠征の多くの経験からいくつかの実例を挙げ、詳しく解説された。酸素不足からなる高山病は臓器の

○最初の数時間以内の死亡には、多くの防ぎ得た外傷死が含まれる。  
○特に最初の1時間の処置の適否が予後を左右する。

- △AEDを使っての共同作業も実践的で訓練にも緊張感が走る。
- △状況評価／安全確保／緊急連絡
- △初期評価 → 重症度判断  
(意識・バイタルサイン・出血)
- △全身観察 → 重症度判断
- △応急手当（心肺蘇生法・止血・  
体位管理その他）

△搬送 → 救助隊への引継ぎ

一般的には早くその場からの搬出や搬送への作業を急ぎ、大事なこともややもすれると見落としがちになる。過去のいくつかの場合も満足なCPRがされていたの

だろうか、しばし反省が残る。

十五時：「急性高山病」の講習に移る。志賀先生の海外高山遠征の多くの経験からいくつかの実例を挙げ、詳しく解説された。酸素不足からなる高山病は臓器の

中でも特に低酸素に弱い「脳」と「肺」の細胞が障害されて、浮腫（むくみ）が生じると、それぞれ『高地脳浮腫』、『高地肺水腫』という状態に陥り、生命の危険にさらされることになる。高地でパンパンに膨らんだ御自分の顔画像をアップし体験談をも聞かせてくれた。高山病の自覚はなくとも手や顔が浮腫なんだ経験は誰にもあるはずだ。重症度評価の診断法、『高地脳浮腫』、『高地肺水腫』の治療法や対応などの説明の後、山小屋関係者から、緊急時に使用する即効性の薬品などについて熱心な質問がされた。



人が倒れています。誰か来てください。

関わる人達とのひと時を過ごされた。それの個性的な自己紹介のあと、ボルテージは北岳も負けそなぐらい登つていった。遭難しなければいいがなあ。



手際よく、骨折の固定の練習

## 二日目、九時：訓練開始。

今日は負傷した人を想定しての実技訓練に移り、昨日の講習内容を段階的に確認していく。負傷者への近づき方、動かしてはいけないことの重要性と動かし方、手当ての態勢作り、救助者への汚染を含めた安全確保、清水での消毒、患部を乾かさない工夫、サムスプリントやテーピングなどでの固定を含めた骨折への対応等を学んだ。

三角巾は勿論、サランラップや紙コップ、パンストなども立派なファーストエイドの医療品に早替わりさせる。

目からウロコの参加者は今後の山行時によきっこんな便利なものを携帯するに違いない。時間がとても早く過ぎていく錯

覚を覚えるほど、内容は充実し、いよいよ受講のまとめ、ムラージュによるシミ

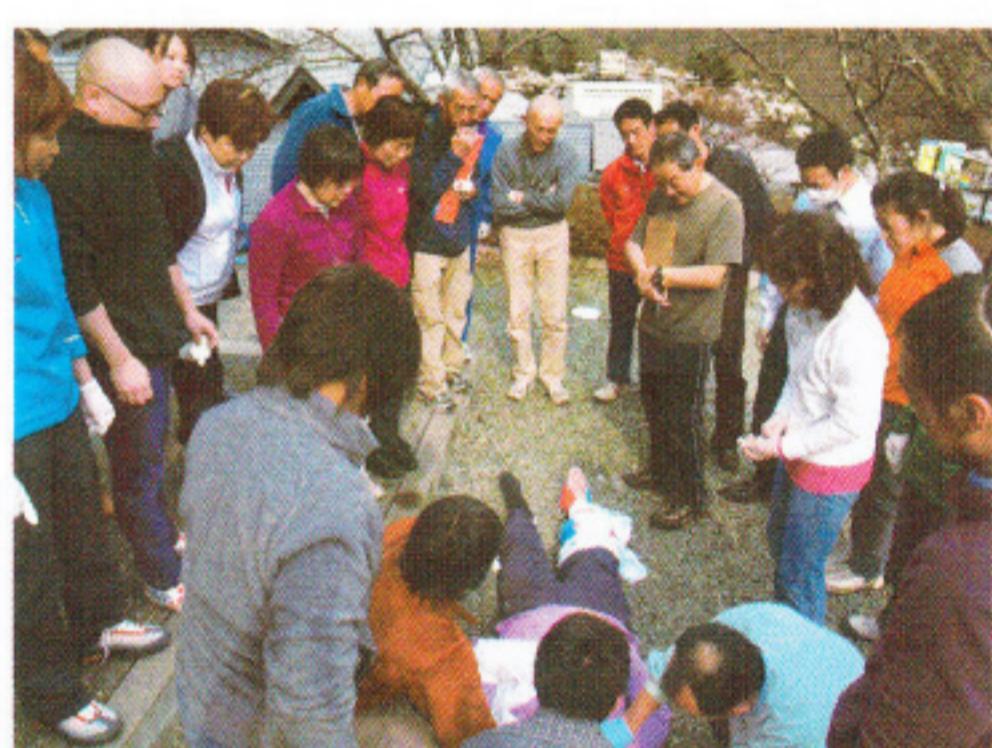
野次馬レポーターに扮し、状況を撮影し

れた。加藤君のご両親も参加され、山に

ダイヤモックス、デキサメサゾンなどの使用について丁寧な解説があった。

基本的には出来うる環境において早く標高を下げる。高山病ライン以上の標高での宿泊や睡眠を避けることを心がけたい。

夕方、大久保基金の会の総会後、講師と訓練参加者が一同に会し、懇親会を行わ



シミュレーション後の講評を恵先生から聞く

閉会セレモニーでは御一人の先生のサイン入りの講習修了書を参加者に配布し、それぞれの健勝を祈つて散会した。「こんなに充実した受講は今までなかつた」「みんなで同じ救急法を受講し、確認しあえてよかつた」「現実的な処置を教わつてよかったです」「忘れないうちにまた受けたいかった」「忘れないうちにまた受けたいね」こんな感想が帰路につく参加者から互いを評価しあう。転落により見事に手足を開放骨折し、チアノーゼの症状まで出ている怪我人と、片や、顔面に落石が当り、眼球が飛び出して流れ出し、鼻が折れ曲がっていて、しかも「痛いよ、痛いよ」と泣き叫んでいる。さあ、大変だ。それに救助グループが到着し、意識の確認、患部の洗浄、止血時の記録、骨折の手当てや固定、眼球負傷への保護、サムスプリントでの頸椎保護が手際よく展開している。しかし、気のせいかな顔面負傷者班のほうが手当てに苦慮している。たぶん本人が鏡で見れば卒倒しそうなメイクに圧倒されたのかも知れない。

しかしどちらも三分钟左右完了。手際のよさに先生からもお褒めのことば。しかし飛び出した眼球へ触れたり、防塞处置を怠つたりの反省点もあった。

ていた私は救急処置の邪魔になると叱られ、なおも頑張ると、「名誉棄損、プライバシー保護で告訴されますよ」と、解りやすい制御を山小屋管理者からかけられた。何度も経験したような口調で。

今回は南アルプス北部の高山に関わる関係者、緊急時には何らかの関わりを持っている人達が一同に参加してくれた。そのことの意義が非常に大切なことである。救助、捜索等の決して安易な作業ではない行動に際し、共通の理念と価値観が必要であり、間に合わせではない連携が必要不可欠になる。

夏山シーズン前の今回の受講はそれぞれに山岳活動への自信を与えると共にいかなる状況へもファーストエイドの協力を惜しまない覚悟のきっかけになってくれたら、主催者の一人としてこんなにうれしいことはなく、尊い基金が有効に活用された二日間になつたことを喜びものである。

の1時間30分ほどで農鳥岳一般ルートに合流し、ほっとひと息でした。尾根には雪紋がきれいに出来ていて自然の厳しさや美しさを実感できました。



大門沢下降点まで下り、強風を避けテント設営が16時30分。満天の星に甲府盆地の夜景が明るい。明日はあの光の中だと思うと、今此処では中間世界に存在している様な気がする。

### 3日目

2日続けての3時起き。各自思い思いの食事を摂る。朝焼けが昨日にも増して素晴らしい一同歓声を上げ写真を撮る。「朝焼けは悪天の兆し」(お願い、雨は降らないで。)と祈りながら5時に出発。

此処からはIさんが先頭を歩き広河内岳に5時30分着。ゆったり大きく長い山容が一昨年登った笊ヶ岳へと続き、西に塩見岳・荒川三山・赤石岳、また北には乗鞍岳・中央アルプス・北アルプスなどが遠望できて、今日の好天に感謝しました。



7時5分大籠岳、8時白河内岳、9時25分笊山北峰、10時笊山南峰。

十年前にAさんの山梨百名山達成の時は笊山で、私もお祝山行に同行し、伝付峠から笊山に登り大門沢を下りの2泊3日でしたが、藪とハイマツを漕いだりで大変だったのですが、今回は雪で覆われていたせいかずいぶん足場もよく快適に歩くことが出来ました。又当時は登山道もなく、標柱が一本もない状況で地図だけが頼りで、夏だったので水がただただ重く感じたことを思い出しました。今回は標柱も東海パルプにより立派なものが建ち複雑な気分でした。

今までここ笊山の南峰より高い北峰を山頂と思いがちですが、標柱の建つ南峰が笊山頂上だとAさんとも改めて確認しました。この静かな山頂に奈良田湖から登って来たと言う登山者がいて驚かされました。そのためトレースがあるのでちょっと安心する。

いよいよ登山道ともお別れで笊山から奈良田湖に向かい下山開始。歩いて来た尾根を振り返ると私たちのトレースがきれいに着いている。よく頑張って歩いたものだと感心すると同時に、名残惜しい。



2年前に山梨山岳連盟の有志によって、笊山へのダイレクトルートとして調査・マーキングがされ利用されるようになった下山路ですが、上部樹林帯は赤テープが頼りの急斜面でMさんのファインディングのおかげで無事に下りることが出来ました。この道の一般道としての利用は難しそうです。

12時30分見晴台のガレ場があり此処で今回の雨池山から大唐松山・農鳥岳までの長く険しい尾根が見渡せ、見るよりは険しかったと思うのです。下りに向かうと早いものでアッという間に人の生活圏に入り水場、山ノ神などその昔の山との深い関わりがあった事を思い出されました。山ノ神で一息入れ奈良田の取水口の脇を下り駐車場に15時25分着。登り口の車を回収し17時30分明るいうちに帰途に。ご苦労様でした。

天気に恵まれ素晴らしい山行でした。

記 塩沢 裕子

画 雨宮 千春



**南アルプス縦走  
大唐松山～農鳥岳を経て笹山へ  
H22年5月1日～3日**

夜叉神から雪の白根を仰ぎ見ると、農鳥岳の前に黒々と太刀持ちの様に聳えているのが大唐松山です。長い間ずっと気になっていましたが、2005年6月にルートファインディング・マーキングしながら登頂し、日帰り12時間の充実感ある登山でした。これは、その尾根から農鳥岳を目指したいとの願望が五年越しに叶えられた記録です。メンバーはその時のリーダーのMさんとアラカン世代の6名が、張り切ってかなり重いザックを背負い出発しました。



#### 1日目

前回の山ノ神からのルートを取らず林道を15分ほど歩き、オイノ沢から尾根に取り付きほぼ直登にコースを取り、雨池山を目指し急登を端ぎあえぎ樹林帯を進み、やっとなだらかな1700mの草原に出た時はほっとしました。ここは鹿の糞がいっぱい此処でも鹿の健在ぶりに驚かされます。一息つく間もなく雨池山を目指します。途中平坦地でゆっくりと腰を下ろし昼食にし、西に白く笹山・白河内岳・大籠岳までの長い尾根が続くのを皆で確認しあいました。

雨池山の山頂下からはトラバース気味にルートを取ります。しばらくしての樹林帯には四月の新雪が30cmほどありアイゼンを装着し、キャンプ地まで高度400m、3時間頑張ろうと声を掛け合いながらMさんを先頭に他の急登を歩き、予定していた2300mの平坦地に15時着。ここでテントを設営、新雪のおかげで白くきれいな水も取れて楽しい夕食になりました。明日の長丁場の道のりを考え、食後の楽しい時間も繰り上げて19時にはシュラフに入り、明朝の出発に備えました。

#### 2日目

3時起床、幕営地に感謝し4時50分出発。いきなりのやせ尾根の急登にアイゼンが噛み合わずにスリップしたり、リーダーのMさんも雪壁のコース取りとラッセルで思うように進めずに闘っていましたが、櫛形山から上がる朝焼けに元気を一杯もらい、今日一日の快晴を願いながら大唐松山に7時45分着。

ここには2005年に登頂した時に、同行した福井のAさんが持参した山中塗り記念プレートが、5年経った今も塗りが少し剥げていたものの健在でその前で全員ポーズ！

山頂を後に、アップダウンを何度も繰り返すと、大展望が現れる。8時55分。360度の大パノラマに皆歓声を上げる。



まず目の前に長く池山吊尾根を引いた北岳のピラミダスな山容が存在感を示し、間ノ岳・農鳥岳と続き、笹山と尾根の向こうには笊ヶ岳、富士山は霞だって見えます。もちろん我が家からは西に見える櫛形山や鳳凰山などは東に見え、男性的なアカヌケ沢の頭が際立って見えます。

今日のこれからルートの西に延びた尾根の先に陥しく聳え立つ農鳥岳が我々を寄せ付けそうもない山容です。あの山のどこにルートを取るのだろうか？予定通りにキャンプ地まで行けるだろうか？心配しながら尾根を黙々と相変わらずのアップダウンを繰り返しながら行くと、誰からともなく{虹だ！}と声が上がる。南大門沢の上空に横に伸びた虹。太陽の外輪にも丸い虹が！「日軍は雨の兆し」と、喜んだり、心配したりでしたが、山々がくれた素晴らしい景観に元気をもらったひと時でした。



13時50分、いよいよ農鳥岳の登りに！昨日は靴擦れがひどかったのでアイゼンなしで通したのですが、此処でアイゼンを装着し出発。雪壁をゆっくりとMさんのリードで足も竦みそうな急傾斜に、皆慎重に一步一步踏みしめて

# クライミングボード製作

## 「奮闘記」

この発端は定例会で出た。南アルプス市フルーツ山麓フェスタで(以下フェスタ)「子供達に懸垂下降の体験をさせたいなあ」この一言から膨らんでしまった。山岳コーナー入場門の上にステージを作り、そこからの傾斜版を使った懸垂下降の体験なら可能だね。

こんな軽い乗りから五ヶ月が経ち、実施可能な予算は市が整えてくれた。

さあ、傾斜版のレベルをどうしますかね。考えあぐねていた四月の定例会で「クライミングボードを山岳館に欲しい」こんな意見が南のほうから出た。これが最終的にスイッチオンになった。

「フェスタで使つた後、山岳館へ設置できる様なちゃんとした物を作ろう」

まず、ホールド探しから始まった。某ネットオークションや木材での手作りなど、様々だ。結局、入門コース作りのバージョンを二セット購入し、これを斜面にランダムに取り付けることになった。傾斜版は厚み十八ミリの合板を八枚使い、三・六メートル×三・六メートルの平面を作り、滑り止め塗料を二回塗りで仕上げた。

大人が適当に設置するのはたやすいが、きつとつまらないものになるし、第一、子供達用のボードの根拠がない。



ザイルでの確保。チームワークもいいね

が出来上がった。後はフェスタへの参加者がこれにどんな反応を示してくれるかが楽しみだ。

清水准一 画・記



限界までのルートに挑む

生後二カ月半の虎太郎(雄)が飛び入り参加してくれました。我がブースの横につながれた虎太郎君、やんちゃ振りを發揮し、愛嬌を振りまいていました。甲斐犬をはじめて見る人は、真っ黒な毛と子犬と思えないほどのがっしりとした足に驚いていました。

今は、やんちゃですが、きっと来年のフェスタには、精悍な面構えとなり、見事な虎毛となっていることは間違いないかもしれません。

また、フェスタ会場には、着ぐるみのカモシカとイノシシも現われ、小さい子供たちを抱き上げたり一緒に写真を撮られたりして喜んでいました。

いつの日か、成犬となつた虎太郎君がこの二匹を家来に従え、パワーアップして、このフェスタに現わることでしょう。

芦安ファンクラブがフルーツフェスタに関わって三年目となりました。毎年晴天に恵まれ、今年は、クライミングボードも新設され、お子さんたちの長蛇の列が作られるほどの人気振りでした。安全にクライミングをしてもらうためにロープで滑落防止の補助を一日中がんばっていた会員の目には、子供たちの真剣さと頑張り、特に男の子より女の子のたくましさが新鮮な驚きとして映っていました。

ところで、皆さんは、甲斐犬をご存知でしょうか。甲斐犬は天然記念物に指定されていて、芦安発祥の犬です。かつては、マタギと一緒に熊や猪を追いかけ、山野を駆け回つたものです。



やんちゃな虎太郎